
あなたと一緒に

和白 勇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたと一緒に

【Nコード】

N5709U

【作者名】

和白 勇

【あらすじ】

平凡な人生を送っていると信じていたのにも関わらず、両親が突然の失踪?!私のこれからはどーなるの???!

プロローグ（前書き）

初めての投稿です。不慣れで更新も亀だと思いますが、完結に向けてがんばります！

打たれ弱いので、間違いやおかしな表現をご指摘していただける場合は、優しく教えていただけるとうれしく思います。

プロローグ

この世の終わり、なんてものは今の自分には関係ないと思ってた。今まで不幸だと感じたこともなくて、普通に毎日を楽しく過ごしていたから。

平凡で穏やかな人生を送るのかな、とも。

でも、そんなものは幻想だったみたい。

いかに平凡な日々がとても幸せなことなのかを、今現在ひしひしと実感しています。

ああ、神様。

いったい私はあなたに何をしてしまったのでしょうか。

てゆうか、誰か。

今のこの状況を教えてくださいー！！

浅川晶^{あさかわ あき}17歳。男の子みたいな名前だけど、いたって普通の高校2年生。

自宅に戻ると、私は両親に捨てられていた。

『晶へ

父さんと母さんは、それぞれ家庭のある人と恋に落ちてしまいました。

実は先日、お互いのパートナーにバレてしまって、どうにもこうにもなりそうにありません。

このままではいけないと思い、二人で話し合ったところ、結論は同じでした。

なので、かけおちします

父&母より

追伸：多分、生活費なんて送る余裕なんてないと思うから、頑張っ
って働いてください。

『死なないでね!!』

「アホかあああああーーーーッ!!!!!!!!!!」

居間のテーブルにご丁寧に置かれた手紙を読み終わると、叫びながらくしゃくしゃに丸め、全力でゴミ箱に投げ捨ててしまった。

家庭のある人と恋に落ちたってナニ?!

不倫?!

しかもダブル不倫てやつ???!!

それに、かけおちって何なの?!

世間一般で考えるとありえないでしょ!!

両親そろって不倫してかけおちって…。

「わあああああーーーー!!!!!!!!!!」

考えれば考えるほど、頭の中がグルグルしてくる。

落ち着け!ちょっと冷静に考えよう!!

「って、できるかーーーー!!!!!!!!!!」

はあはあと息を切らしながら、もう一度手紙を読み直してみる。
やはり、書いていることに変化はない。(当たり前だ！)

「どーすんのよ。どーしたらいいのよ。これからの私は」

夕方になり、薄暗くなり始めた室内を見回して、ため息をつく。

高校2年になったばかりの子供が、これからどうやって生活していけばいいんだろうか。

バイトはしてるけど、毎日シフトに入ってるわけでもないし、時給もそんなにいいところじゃない。

第一、毎日入ってしまうと学業のほうがおろそかになってしまう。

もう何度目かわからないため息が、口を開くと出てくる。

「これじゃ、学校やめて働くしか、私が生きていく道なんてないじゃない…」

でも、そんなことはしたくない。私が、今の高校に行きたいと思っただのも、合格ラインには少々足りないレベルだったのに、必死で勉強したのも、毎日の(私にとっては)ツライ課題をこなしているのも。

「有坂くん…」

そう、すべては同じクラスの有坂玲二ありさかれいじくんと、できるだけ近くにいたいがため…!

「こんなこと(？)で、くじけてたまるか！…！」

どれだけツライことだろうと、住む家だけはあるんだ。きつと何とかなるはずよ！

そう信じよう。

たとえ両親に恵まれていなくても、私はきつと生き抜いてみせる！

ついさっきまで落ち込んでいたのにも関わらず、あっさりと立ち直ってしまった私。

もともと物事を深く考えないたちで、普段から「何とかなるさ」で、過ごしていたから立ち直りも早かった。

でも次の日、さらに私に追い討ちをかけるように、その人物はやってきた。

ぼんやりと眠りから覚めた私は、まだはつきりしていない頭でのそりと起き上がり、ソファから転がり落ちた。

「いててて…」

ぶつけた腰をさすりながら、居間のソファで寝ていたことを不思議に思う。

「そうか、やっぱり夢じゃなかったんだ」

日曜日だというのに、しんと静まり返った部屋。

昨日は、がらんとした家が何だか怖くて、年がいきもなく自分の部屋ではなく、居間でテレビをつけたまま眠ってしまった。

そんなことを考えていたら、玄関のチャイムが鳴った。

「浅川さん、浅川さん！」

時計を見ると10時を回っていた。普段は日曜日でも7時には目が覚めているので、いつもに比べたらかなりの寝坊だ。

よほどのストレスだったのだろうか。

「当たり前だろうけど……」

ふふつと笑って、乱れた髪を手ぐしで整え、玄関へと向かう。

「どなたですかー？両親なら今はいませんけど……」

ドアを開けながら、その声をかけるとスーツを着た若い男が、にっこりと笑い

「ご両親が不在なのは知っております。先日、手続きをすべて終えられました、こちらの物件は売却されました。つきましては、お早めにお嬢様も立ち退いていただくこととなりますが、よろしいですか？」

と、爽やかに言った。

寝起きということもあって、頭がうまく働かない。

目の前にいる、男の人の言ってる意味がわからない。

「あの、すみません…。私の聞き間違いでないのなら、この家を出て行け。というふうに聞こえたのですが…?」

状況が理解できていないけど、とりあえず聞いてみよう。

「あれ?何もお聞きになっていないのですか?一応確認はされてあると聞いていたのですが」

困りましたね。と首をかしげながら、なにやらごそごそとカバンから書類を取り出し、私にはよくわからないけど、『御津谷不動産』と書かれた書類を見せてくれた。

「ほら、ここの部分見てください。うちの社とご両親との契約書類なんです、ね?サインも実印もしてあるでしょ?売りに出されちゃったんですよ。この家」

「ちょ、ちょっと待ってください!!」

私は男から書類をひったくり、わからないなりに確認をしていく。

最終的に理解できたのは、『売却』と書かれたところと、父親のサイン、土地と家の権利書も『御津谷不動産』というところに、預けられている。ということだった。

人間って、これが最終ラインってぎりぎりのところのショックを超えるかどうかだろう。

というより、この家までなくなったら私はこれからどうしたらいい

いんだらうか。

「大丈夫ですか？顔色すごく悪いですけど」

「いえ、全然大丈夫ではないです」

そう言った直後、私の意識はぷつぷつりと途絶えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5709u/>

あなたと一緒に

2011年7月9日14時21分発行